



“地域のことは地域で考えよう”

2019年5月30日

## おきぎん県内景況・速報

2019年4月

—県内景況は、拡大している—

### ■個人消費

スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回る。既存店ベースは前年同月を下回る。  
百貨店売上高は前年同月を上回る。  
家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数も上回る。

### ■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。  
生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

### ■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。  
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテルが前年同月を上回り、ビジネスホテルは下回る。  
ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回る。

### ■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

## 現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2019年4月分)



◎概況：県内景況は、拡大している。

4月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回りました。既存店ベースは前年同月を下回りました。百貨店売上高は、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を上回りました。新車販売台数も、前年同月を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、沖縄県や国などによる発注工事の減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに下回りました。

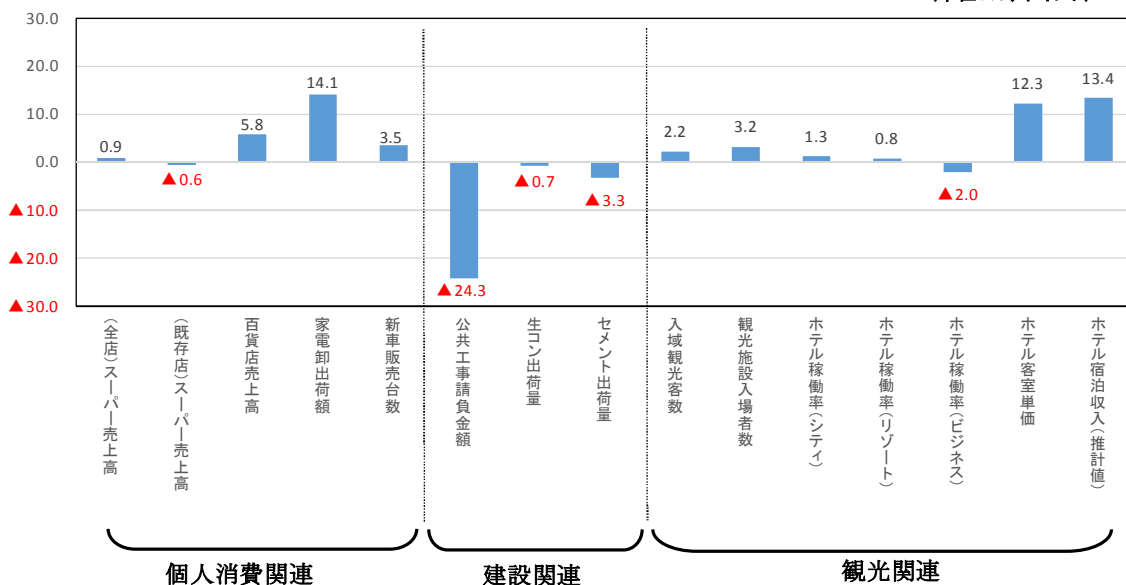
観光関連では、入域観光客数は7ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテルが前年同月を上回り、ビジネスホテルは下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連では堅調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から63ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)

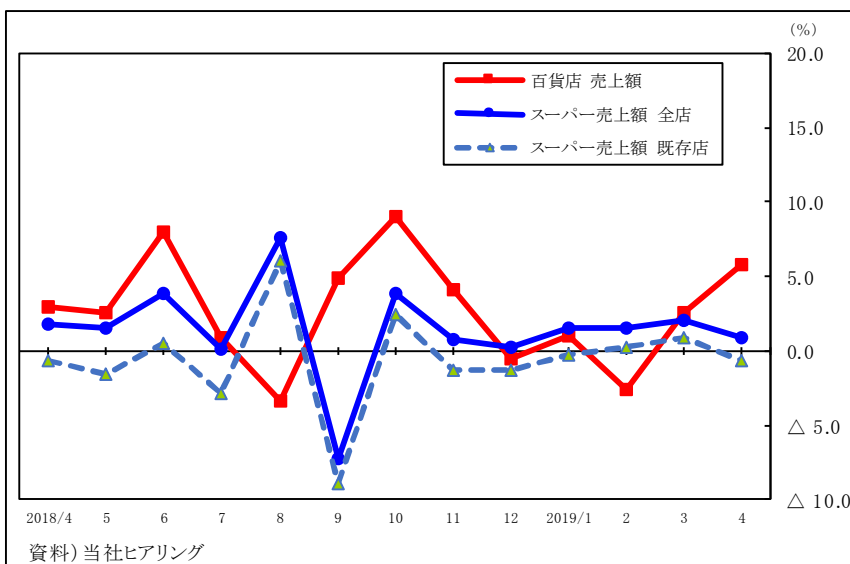




■個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回る。既存店は前年同月を下回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2018/4	1.8	△ 0.7	3.0
5	1.6	△ 1.5	2.6
6	3.8	0.5	8.0
7	0.1	△ 2.9	0.9
8	7.6	6.1	△ 3.3
9	△ 7.2	△ 8.9	4.9
10	3.9	2.4	9.0
11	0.8	△ 1.3	4.1
12	0.3	△ 1.3	△ 0.5
2019/1	1.5	△ 0.3	1.0
2	1.6	0.2	△ 2.6
3	2.0	0.9	2.6
4	0.9	△ 0.6	5.8



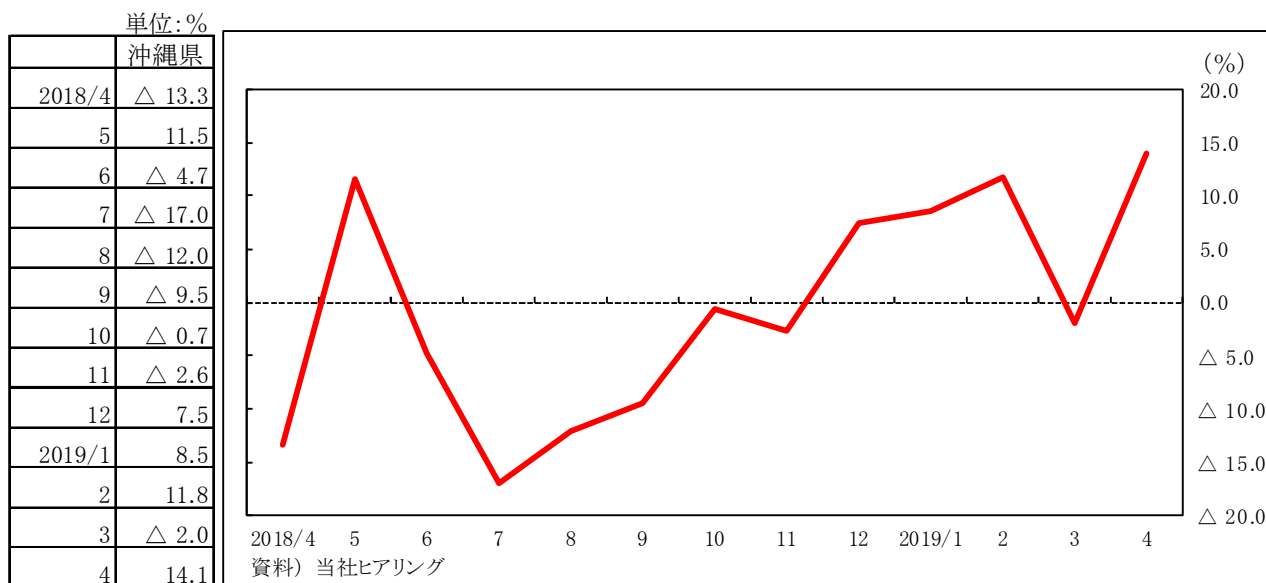
注) 前年同月比

4月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 0.9%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同 1.3%増)」、「家庭用品(同 0.5%増)」などの売上が伸び、7ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 0.6%減)」は、全般的に売り上げが伸びず、3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同 0.6%減)」は、生鮮食品や惣菜など全般的に売上が伸び悩み、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。また、「家庭用品(同 0.4%減)」は、エアコン等の家電の売上が伸びず、4ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。「衣料品(同 2.2%減)」は、季節商材等の売上が伸びず、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、販促効果により衣料品が好調だったことから、2ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 5.8%増)。内訳をみると、「食料品(同 4.7%減)」、「家庭用品(同 20.8%減)」は、前年に物産展開催により伸びた反動などから、食料品が4ヵ月ぶりに、家庭用品が5ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。一方、ウエイトの高い「衣料品(同 10.2%増)」は、販促企画が好調だったことから、「紳士服(同 2.7%増)」、「婦人服(同 14.0%増)」、「子供服(同 1.4%増)」など全般的に売上が伸び、6ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 20.3%増)」は、売り場のリニューアル効果などにより、前年同月を上回りました。

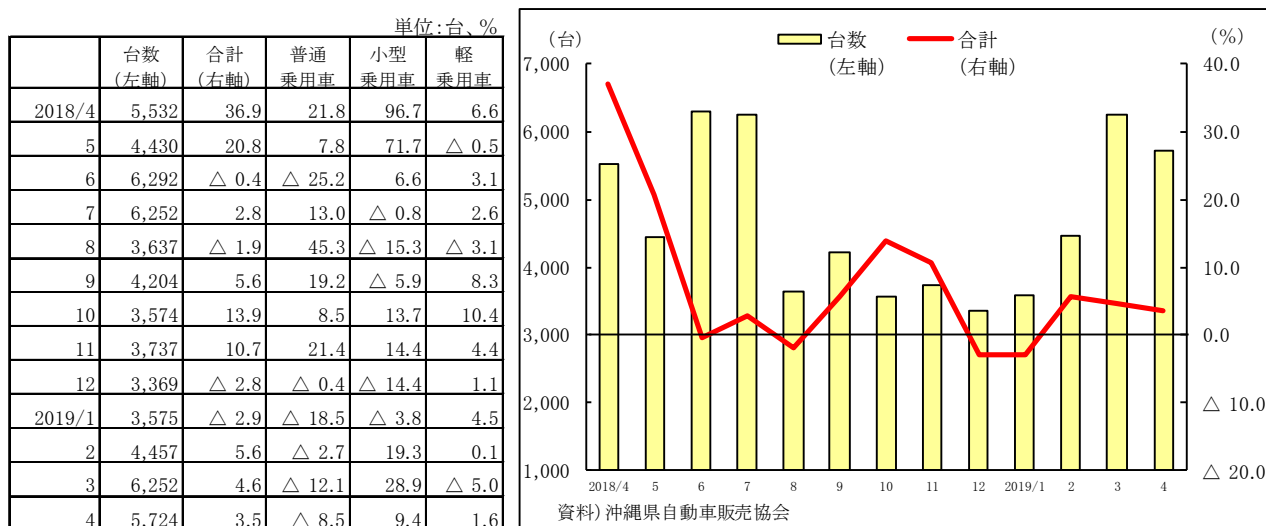
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月ぶりに前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、エアコンなど白物家電の売り上げが伸び、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました(同14.1%増)。品目別では、「テレビ(同24.5%減)」、「VTR(同23.7%減)」は、高価格帯商品の売上が伸びず、前年同月を下回りました。一方、「エアコン(同41.4%増)」、「冷蔵庫(同12.9%増)」、「洗濯機(同20.4%増)」は、買い替え需要が好調だったことから、前年同月を上回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、3ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

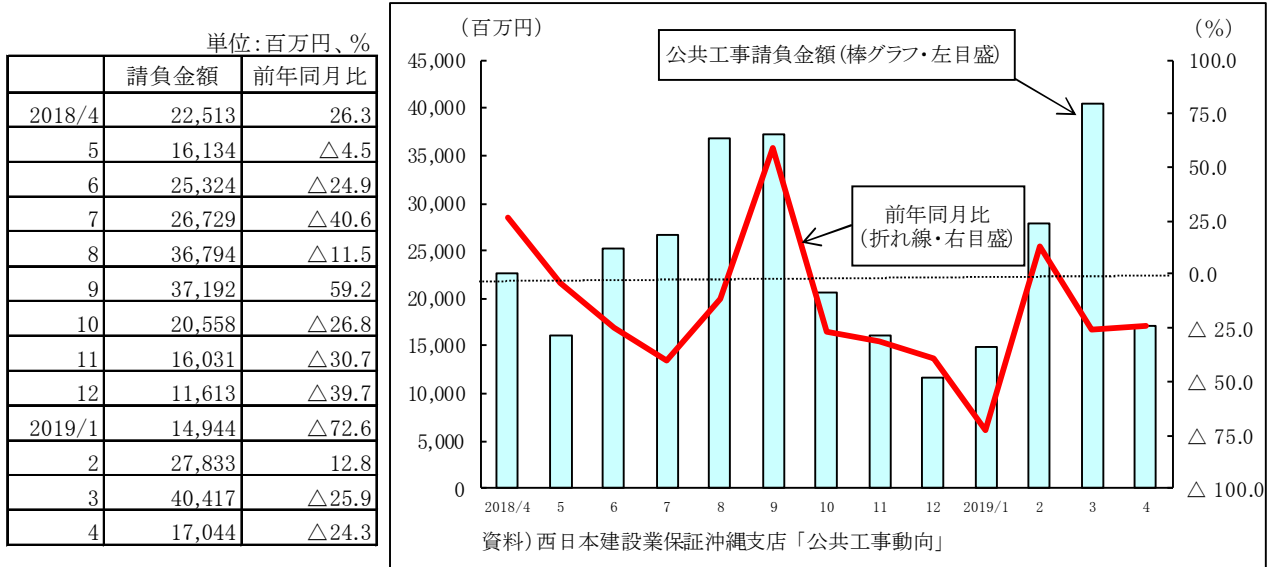
新車販売台数は、全体で5,724台(同3.5%増)となり、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「普通乗用車(同8.5%減)」は、レンタカー需要が減少したことから、5ヵ月連続で前年同月を下回りました。一方、「小型乗用車(同9.4%増)」は、レンタカー需要が増加し、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。「軽乗用車(同1.6%増)」は、自家用車需要が増加し、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



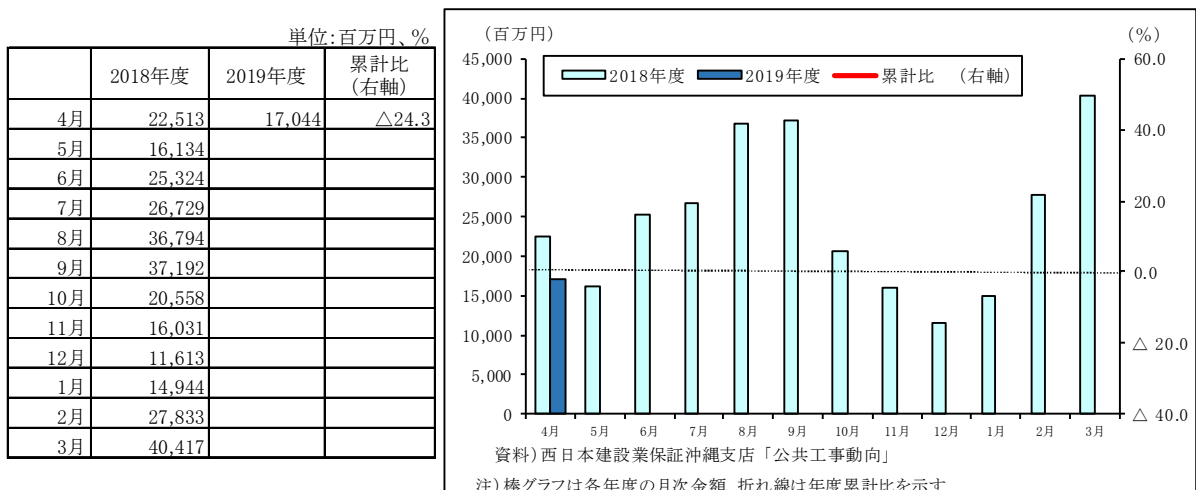
■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。



4月の公共工事請負金額は、前年同月比24.3%減の170億4,400万円となりました(2ヵ月連続減)。発注者別でみると、「国(同26.5%減)」のほか、「沖縄県(同61.6%減)」や「その他の公共的団体(同64.5%減)」は前年同月を下回りました。一方で、「独立行政法人等(同337.1%増)」や「市町村(同94.8%増)」は上回りました。

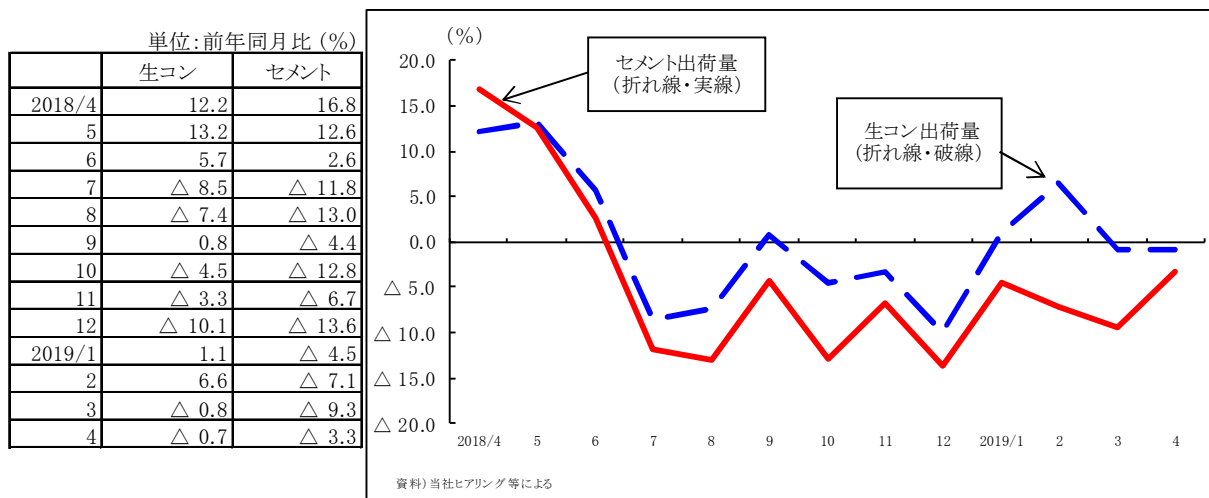
【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。



今年度累計値では、単月となりますが24.3%減となっています。

【参考】2018年度の公共工事請負金額は、前年度比22.6%減の2,960億8,600万円となりました。発注者別でみると、「国(同48.5%減)」や「沖縄県(同2.8%減)」は前年度を下回りました。一方で、それ以外の「独立行政法人等(同1.5%増)」や「市町村(同9.2%増)」、「その他の公共的団体(同12.1%増)」は上回りました。

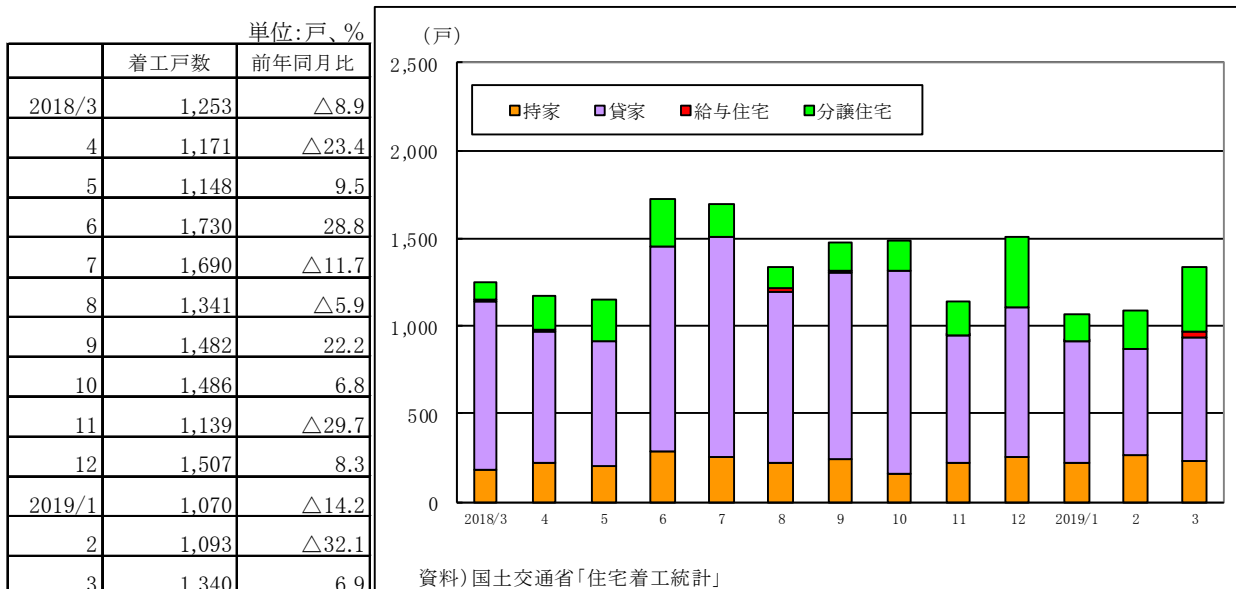
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

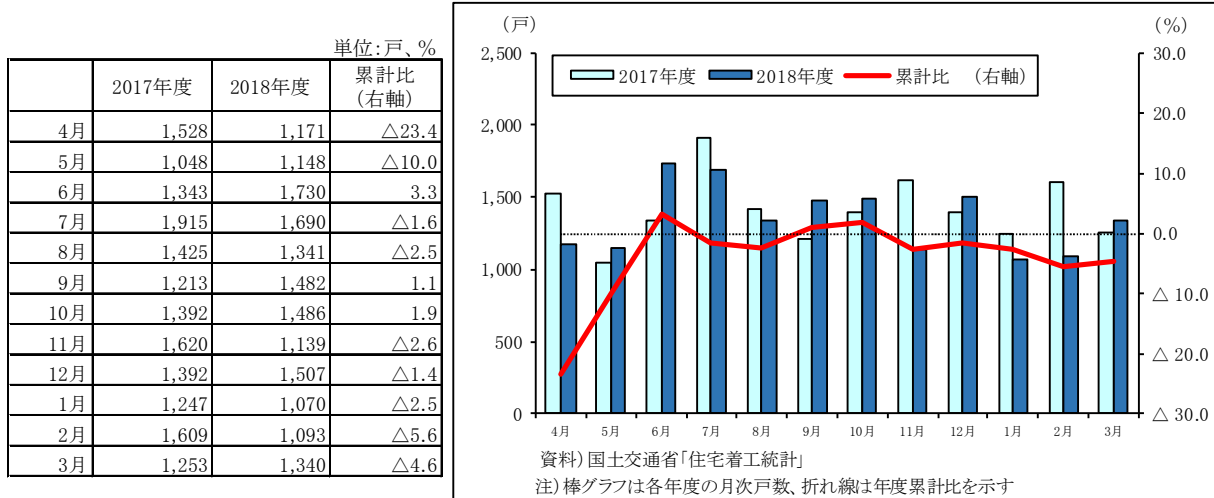
建設資材関連では、生コンの出荷量は 0.7%減と 2 ヶ月連続で前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より 4.4%上回り、民間工事向け出荷は 2.8%下回りました。セメント出荷量は 3.3%減と 10 ヶ月連続で前年同月を下回りました。

【参考】住宅投資(3月)・・・着工戸数は前年同月を上回る。



新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比 6.9%増の 1,340 戸と 3 ヶ月ぶりに前年同月を上回りました。利用別戸数を見ると、ウェイトの高い「貸家 (同 26.4%減)」は前年同月を下回りましたが、「持家(同 27.6%増)」や「給与住宅(同 440.0%増)」、「分譲住宅(同 254.3%増)」は上回りました。

住宅投資（年度累計）・・・3月までの着工戸数は前年同期を下回る。



年度累計で見ると、3月までの累計値で4.6%減となっています。

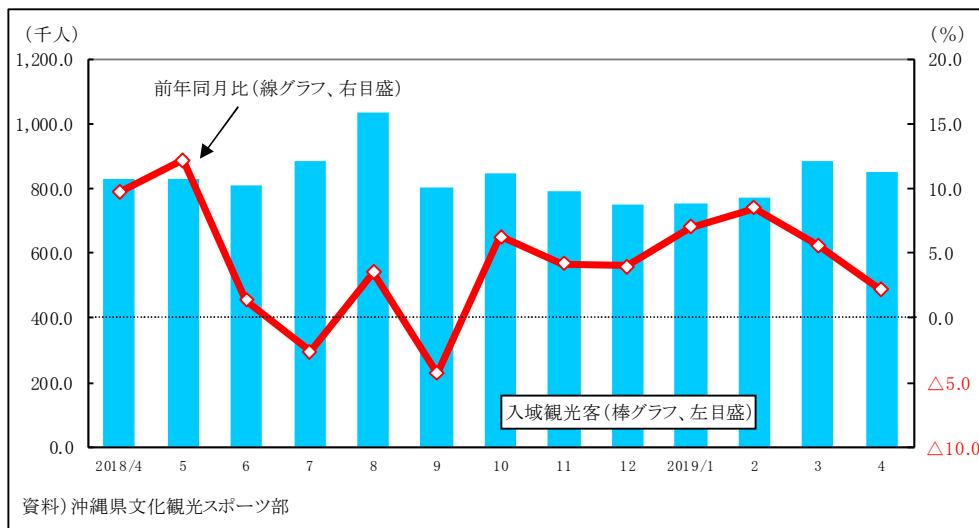


■観光関連： (良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・7ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2018/4	833.2	9.7
5	830.9	12.2
6	809.7	1.4
7	884.1	△ 2.6
8	1,037.9	3.5
9	801.5	△ 4.3
10	849.3	6.3
11	r 795.2	r 4.2
12	747.5	4.0
2019/1	753.5	7.0
2	772.2	8.5
3	884.0	5.6
4	851.4	2.2

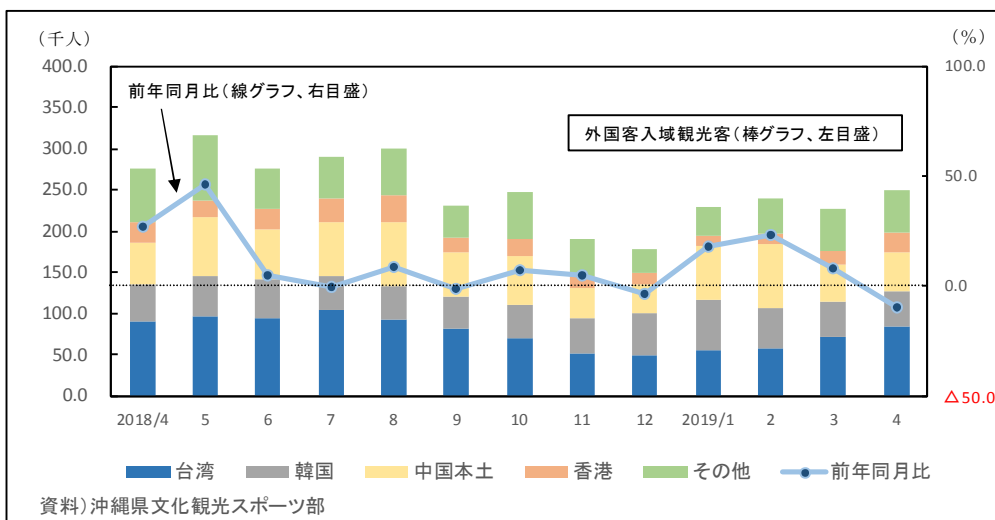
※外国客は乗務員等を含む



外国客 入域観光客数・・・4ヵ月ぶりに前年同月を下回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2018/4	276.8	27.2
5	316.3	45.9
6	275.1	5.2
7	290.8	△ 0.6
8	300.0	8.8
9	230.5	△ 1.3
10	246.5	7.5
11	r 191.1	r 4.8
12	177.2	△ 3.2
2019/1	229.8	18.2
2	240.1	23.3
3	226.6	7.8
4	250.3	△ 9.6

※外国客は乗務員等を含む



4月の入域観光客数は、18,200人多い851,400人(前年同月比2.2%増)となり、7ヵ月連続で前年同月を上回りました(4月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同8.0%増)」は601,100人と、ゴールデンウィークによる航空会社の臨時便の運航等があったことや、沖縄国際映画祭等の大型イベントの開催があったことなどから、7ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同9.6%減)」は、250,300人と4ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。ゴールデンウィークが10連休となり旅行商品が高騰したことや、クルーズ船の寄港回数減少などにより、前年同月を下回りました。

「台湾(同5.6%減)」「韓国(同6.5%減)」「中国本土(同10.3%減)」「香港(同11.4%増)」

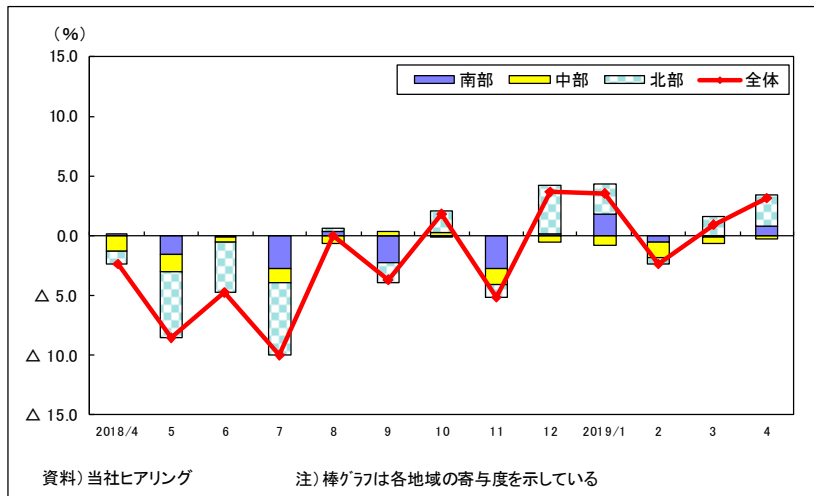
※乗務員等を除く2019年4月実績＝全体819,700人(同3.4%増)、外国客218,600人(同7.5%減)、国内客は変わらない。



② 観光施設入場者数・・・2ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2018/4	△ 2.4	r 0.2	△ 10.7	△ 2.4
5	△ 8.6	△ 4.0	△ 12.7	△ 11.7
6	△ 4.8	△ 0.5	△ 4.6	△ 8.3
7	△ 10.0	△ 7.8	△ 12.2	△ 11.0
8	△ 0.1	1.0	△ 6.5	0.5
9	△ 3.7	△ 5.9	3.2	△ 3.4
10	1.9	△ 0.6	2.3	3.9
11	△ 5.2	△ 6.1	△ 11.3	△ 2.4
12	3.6	0.1	△ 4.3	9.8
2019/1	3.5	4.2	△ 6.1	5.8
2	△ 2.5	△ 1.4	r △ 11.5	△ 1.2
3	0.9	△ 0.4	r △ 4.7	3.4
4	3.2	1.8	△ 2.2	5.7



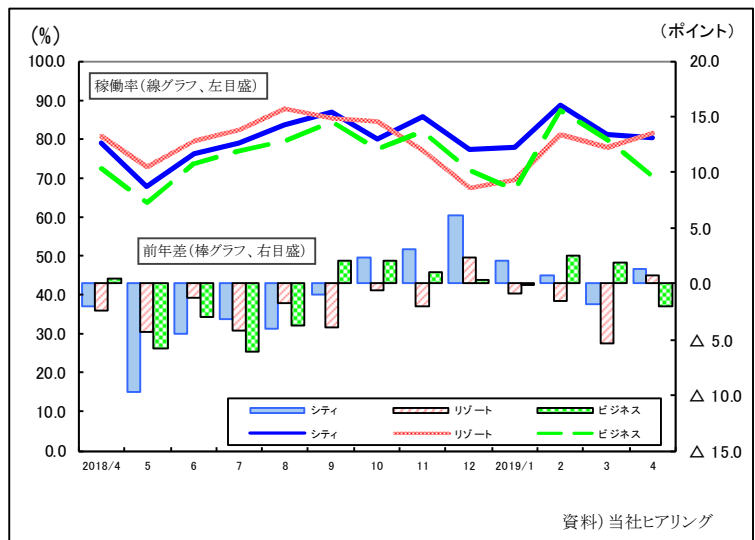
※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部4施設  
 ※2019年1月より、中部の対象施設数が変更(6⇒5)となったことから、2018年1月以降の数値を遡って改定した。  
 ※2019年3月より、北部の対象施設数が変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。  
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 3.2%増加(2ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 1.8%増と3ヵ月ぶり、北部は同 5.7%増と2ヵ月連続で前年同月を上回り、中部は同 2.2%減と6ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテルは前年同月を上回り、ビジネスホテルは下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2018/4	78.9	r 80.6	72.5	△ 2.0	r △ 2.5	0.4
5	67.9	72.9	63.5	△ 9.7	△ 4.3	△ 5.8
6	76.0	79.5	73.8	△ 4.5	△ 1.3	△ 3.0
7	79.0	82.4	76.8	△ 3.2	△ 4.2	△ 6.1
8	83.5	87.9	79.6	△ 4.1	△ 1.7	△ 3.7
9	87.0	85.4	84.3	△ 1.0	△ 3.9	2.1
10	79.9	84.4	77.3	2.4	△ 0.5	2.0
11	85.5	76.9	82.1	3.1	△ 2.0	1.1
12	77.4	67.3	72.0	6.2	2.3	0.3
2019/1	77.9	69.6	67.0	2.1	△ 0.9	△ 0.1
2	r 88.4	81.2	87.3	r 0.7	△ 1.6	2.5
3	r 81.0	r 77.8	80.0	r △ 1.8	r △ 5.3	1.9
4	80.2	81.4	70.5	1.3	0.8	△ 2.0

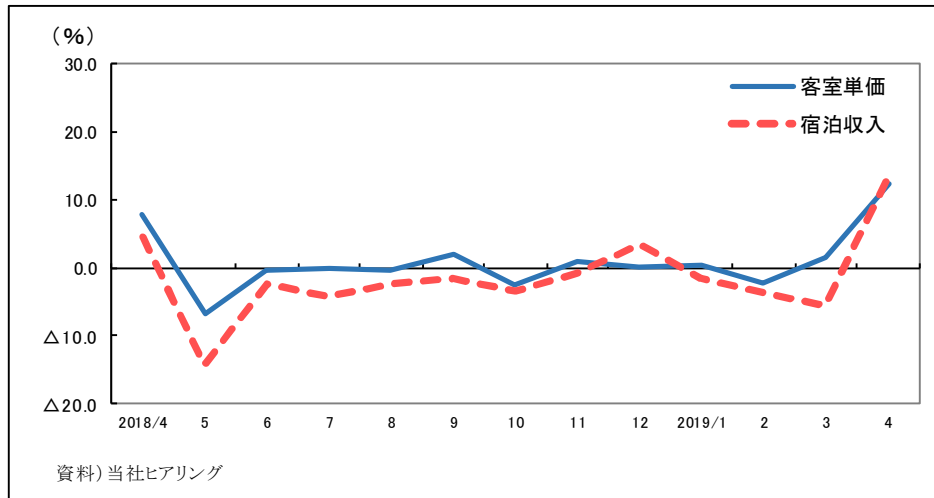


注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス6ホテル  
 注) 2019年3月より、ビジネスホテル対象施設数に変更(7⇒6)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。  
 注) 2018年4月については、サンプル調査の都合上、ビジネスホテルは5ホテルとなっている。  
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 80.2%と 1.3 ポイント上昇(2ヵ月ぶり)、リゾートホテルが 81.4%と 0.8 ポイント上昇(4ヵ月ぶり)、ビジネスホテルが 70.5%と 2.0 ポイント減少(3ヵ月ぶり)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。

単位:%		
	客室単価	宿泊収入
2018/4	r 7.9	r 4.5
5	△6.7	△14.3
6	△0.5	△2.4
7	△0.1	△4.2
8	△0.5	△2.4
9	2.1	△1.6
10	△2.5	△3.5
11	0.9	△0.8
12	0.1	3.4
2019/1	0.3	△1.5
2	r △2.2	r △3.6
3	r 1.5	r △5.6
4	12.3	13.4



※対象施設数: 26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

**ホテル客室単価**(シティ&リゾート)は前年同月比 12.3%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**も同13.4%増と前年同月を上回りました。

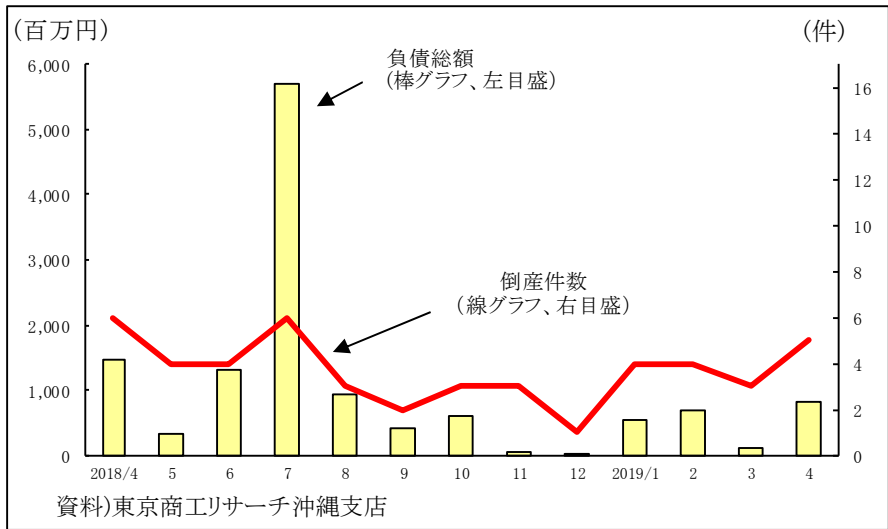


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2018/4	1,467	6
5	347	4
6	1,317	4
7	5,697	6
8	941	3
9	414	2
10	605	3
11	56	3
12	10	1
2019/1	560	4
2	708	4
3	110	3
4	832	5



4月の企業倒産件数は、5件(うち大口倒産は1件)となり、前年同月より16.7%下回りました。  
負債総額は8億3,200万円となり、前年同月より43.3%下回りました。

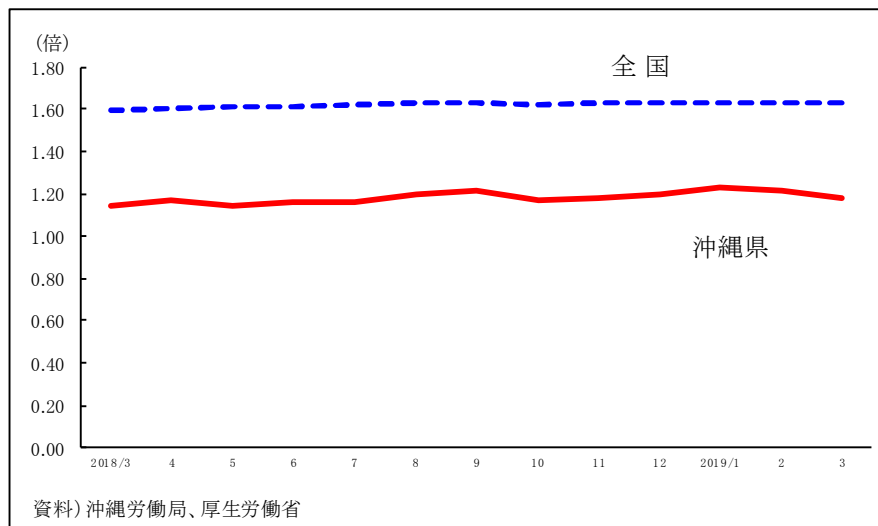


■雇用関連： (良い)

【参考】有効求人倍率(3月)・・・沖縄は前月より低下、全国は同水準。

単位:倍

	沖縄県	全国
2018/3	1.14	1.59
4	1.17	1.60
5	1.14	1.61
6	1.16	1.61
7	1.16	1.62
8	1.20	1.63
9	1.21	1.63
10	1.17	1.62
11	1.18	1.63
12	1.20	1.63
2019/1	1.23	1.63
2	1.21	1.63
3	1.18	1.63



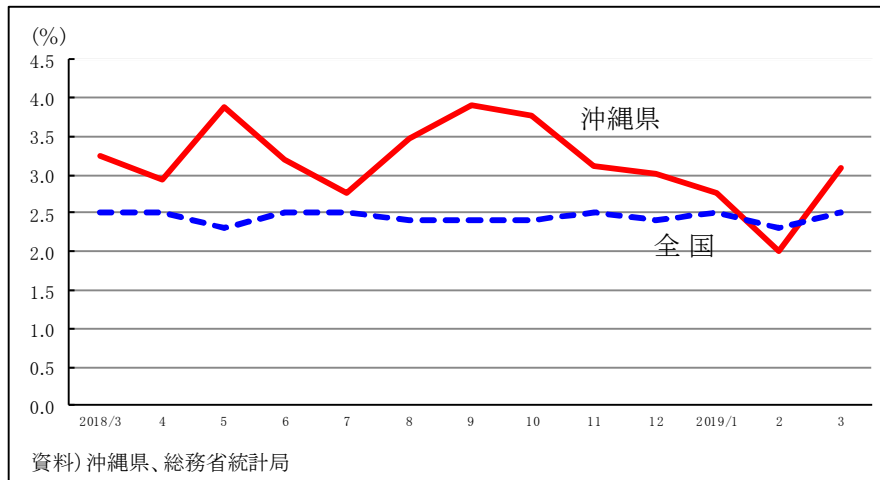
注)季節調整済

3月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比1.5%減の30,097人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.8%増の25,444人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.18倍となり前月より0.03ポイント低下しました。

【参考】完全失業率（3月）・・・沖縄、全国はともに前月より上昇。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2018/3	3.2	2.5
4	3.0	2.5
5	3.9	2.3
6	3.2	2.5
7	2.8	2.5
8	3.5	2.4
9	3.9	2.4
10	3.8	2.4
11	3.1	2.5
12	3.0	2.4
2019/1	2.8	2.5
2	2.0	2.3
3	3.1	2.5

注) 季節調整済



3月の完全失業率(季節調整値)は、3.1%となり前月より1.1ポイント上昇しました。